

Be The Inspiration

Rotary International District 2760

インスピレーションになろう

2018-19 ガバナー月信

6

2019 JUNE



あなたの街でロータリーを！
あなたの街からロータリーを！

CONTENTS

- 2 …… 表紙のおはなし
- 3 …… ガバナー便り
- 5 …… ろーたりーぱっちわーく
- 9 …… 新着ニュース 他



インスピレーションになろう

表紙の おはなし

文：南村朋幸 次期地区幹事（江南RC）



「フラワーパーク江南」

フラワーパーク江南は四季折々の花や各種イベントを楽しめる施設です。一面の美しい花畑や芝生広場は来場された皆さんの心を癒してくれます。また、子供たちの遊び場も豊富で暮らしに役立つ情報も発信されています。



「布袋の大仏」

江南市のシンボルとして有名な「布袋の大仏」。高さは18mあり、奈良の大仏像より2mも高いそうです。この大仏は名古屋で鍼灸師をしていた前田秀信さんが“夢のお告げ”によって1949年に大仏の建立を始め約5年をかけ1954年に完成させたそうです。

国際ロータリー 第2760地区
ロータリークラブ会員の皆様へ

思いもよらぬ暑い5月の後は雨の6月となるのでしょうか。今や異常気象というよりも、何が正常な気候か分からなくなったように思っています。

このような季節の中、会員の皆様にはお健やかに過ごしのことと思います。

昨年7月にスタートした私の年度も残るところあと1ヶ月となりました。この間、本当に皆様には温かいお言葉やご支援を賜り、何とか最終月を迎えることができ、会員皆様には有り難く篤くお礼申し上げます。

この5月はシカゴで規定審議会が行われ、様々なことが決議されました。細かいことは各クラブにおいて、いろいろと報告されている通りではありますが、私にはロータリーが個人の職業を中心にした奉仕をする人の集まりから、大きなボランティア団体を目指し変わって行くことが、より鮮明になったように感じています。

また同時に世界の多くの会員が、決議の方向を願っていることも、明確になったと思っています。

このような情勢の中、我が第2760地区は今月をもって私のガバナーとしての役目は、江南RCの伊藤靖祐ガバナーエレクトに替わりますが、替わり目でロータリーの諸活動が停まることもなく、次年度はさらに力強く奉仕活動を推進されていくことと思っています。

2016年ロータリーは大きな潮目を迎え、舵を切ったといわれています。

その舵を切ったことによるクラブの運営は、柔軟性や多様性の導入も含め定款細則の変更が行われ、戸惑いを感じた会員も多くおられたことと思います。

そして今、クラブという単位の中で職業人が集まってする奉仕する人の団体から、国際社会とつながりを持ち団体で奉仕することを取り入れる方向性がハッキリと出てきました。

世界の多くの会員が手をつないで行う、大きな奉仕の輪も必要なことは、今や世界の多くの会員から支持されていることです。

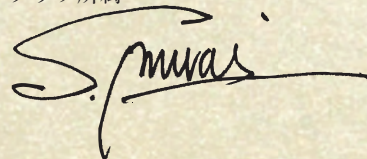
しかし、たとえそうであっても、私はその国その地域、そこで醸成された文化や価値観、を中心にした奉仕活動が、古いものとか違うものとかで、否定されるものであってはならないと思っています。これは皆様に年度当初に地区便覧等でご挨拶に書かせていただいた内容です。

この1年、地区活動方針として「あなたの街でロータリーを！あなたの街からロータリーを！」と申し続けた私の心からの強い願いです。そこには、それぞれが個人事業の中で行う奉仕の大切さを忘れることなく、国際化していく奉仕活動への思いを託させていただきました。

国際的に奉仕団体として認知度が高まることも重要であるとともに、地域社会で愛されるロータリークラブでありたいとも思っています。会員や地域の人から見える社会奉仕活動は、奉仕の満足感や共感性が高く感動的なものが多いことと思います。

私にも皆様にも、まだ今年度は1ヶ月ございます。最後まで自分たちが信じる奉仕活動を続けてゆきましょう。

国際ロータリー第2760地区 2018-19年度ガバナー
豊橋ロータリークラブ所属



地区ホームページは[こちら](#)

ガバナーズウェブサイトは[こちら](#)

らたリー ぱっわく

その22
村井ガバナー的まごころ

例会出席について考える

以前、例会運営について述べてみたが、今回は例会に出席することについて考えてみる。多少繰り返しの様な話になるが、ご勘弁を頂くこととしたい。

ロータリークラブは、ポール・ハリスとその仲間4人が集まって会合を開いたことから始まり、そして集まる場所をローテーションしたことから、ロータリーの語源になった。つまり仲間が集うことがロータリー例会の原点であると言えよう。

私が入会するときには、多くの先輩から必ず例会に出ること、100%出席を目指しなさいと厳しく言われたものだった。私は入会以来100%を続けてきたが、10数年ほど前に長期入院することとなり、一時途絶えてしまった。しかし、今でも例会への出席を重視する考えでロータリー活動を続けている。

さて本題であるが、ロータリーの例会の原点は“集う”ことであった。そこで何週も顔を合わせないことは会員として疎遠になるから、出席の義務がうたわれ、今も各クラブで出席報告という内容で、出席率を出すなど例会出席を重視している。

ロータリーソングの奉仕の理想の歌詞に「奉仕の理想に集いし友よ」とあり、我らの生業にも「集いて図る心は一つ」とある。さらにインターアクトソングも「ここに集いし我らは」と冒頭に出てくる。ロータリーの例会は集うことと考えて良いだろうと思う。

アメリカのレイクプラシッドクラブの入り口には「入りて学び、出でて奉仕せよ」と書いて有り、この言葉は日本のロータリーでも有名であった。あった、と過去形で書いたのは、数年前から国際協議会での垂れ幕にこの言葉が書かれていたのが、消え去り「Join Leaders Exchange Ideas Take Action」（リーダーよ集まれ、アイデアを広げよう 行動しよう）となった。

もちろん、「入りて学び…」が否定されたわけではないが、私はさみしさを感じる。

昨今の世界のリーダーの言葉には、学びの場を持つ例会に出るよりも、奉仕の場に参加していこうとするような表現が多くなってきているように、個人的には感じている。

今世界のロータリーは、地域において奉仕活動として行動を起こす人を多く呼び集めて、より大きな奉仕を広げて、公共イメージの向上、ブランド化を図っているので、学んでそして実践と言うのは、まどろっこしいと思っているのであろうか。

しかし、私が考えてきたロータリーとはどのような会合か、ロータリアンとはどのような人かと言うと次の通りである。

ロータリークラブに所属して例会の場において多くの会員と交わることで、自己の人生や職業サービスに更に磨きをかけ、より高潔性や倫理性を持った人格者として育ち、世の中の役に立つように奉仕していこうということである。

学びの場というと研修研鑽の場と言うことになるが、そこまでセミナー的なものでなく例会運営を共にすることで、育む・育つということに結び付くと思っている。

そのために、毎回例会に出て多くの人と知り合い、良い卓話を聞き、そして例会場を出たら、その実践をしていこうと言うことであると考えている。多様性や柔軟性も良いが、何でも良い、誰でも良いということではなく、ある程度、同じ奉仕の理想形を共にする仲間づくりの場が必要だと思っている。

例会は仲間づくりの場であり、自分を磨く場であろう。ロータリーソングの歌詞の内容がそれを表わしていることは、前述通りである。

ロータリアンとしての奉仕活動の第一歩はまずクラブの例会に出席することであると思うし、そのためには例会の運営を、出席したくなる魅力あるものにしないのはならないのは、言うまでもないことである。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井 總一郎

ロータリー その23 ぱっちわーく

村井ガバナー的まごころ

ぱっちわーくについて考える

今回が最終号となるので、話材を色々考えたが、結局ぱっちわーくについて考えることとした。

今年度のガバナー月信の連載記事としてこの“ぱっちわーく”を書き始めた。そして副題として、「村井ガバナー的まごころ」として、私の個人の思いを勝手気ままに書くことにした。

当初は1本から3本程度をひと月に書くつもりでいたが、7月に2本書いた後は公式訪問が始まりだし、あまりきついペースは嫌なので、1本か2本程度にしようとしたが、結局毎月2本がノルマのようになり、1年で24本書くことになった。

実際のところ、毎月2本は結構忙しかった。というよりもいつも締め切りに追われていた。

ぱっちわーくとは、ハギレをつなぎ合わせたもので、あまり肩ひじ張ったものでなく、私の浅い知識による感想のようなものを書き、それをつなぎ合わせると年度末には、つぎはぎの作品が出来上がればよいなあとの思いであった。

ロータリーには、ハロルドTトーマス氏の“ロータリーモザイク”と言う名著がある。その著書名にあやかったというわけではなく、ただ単に連続性のないコラムのようなものと言う意味で名付けた。

副題の村井ガバナー的まごころは、お気づきの方も見えるかと思うが、TBS系ラジオで平日の夕方に放送されていた『小沢昭一の小沢昭一的まごころ』（昭和48年～平成10年）から勝手に題名を真似たものである。

私はこの番組が大好きで、夕方にカーラジオ（この言い方が懐かしい）から流れる10分程度の放送を聞いていた。

山本直純氏作曲の独特のテーマ曲と女性アナの『今週は〇〇について考える、講演小沢昭一……』で始まる放送は、今週はどのような内容の5日間なのか、楽しみな毎日であった。時事問題では世相を風刺したり、世の黄昏ているサラリーマンのお父さん（番組では宮坂お父さんが多く登場）に妙な激励や同情を伝えたり、たまには大変艶っぽい話もあり、時には怒りの小沢昭一が居たり、聞く側はうなずきと爆

笑とにやけ笑いと…もう大変な世界が私には広がっていく面白い番組であり、小沢昭一の軽妙洒脱なトークはある種の憧れでもあった。

明日（来週）へこの話が續く続かないとは関係なく、小沢昭一は『明日（来週）のころだぁ！』と絶叫するのも一つの楽しみだった。

少し古いことを話し過ぎたようなので、ぱっちわーくに話を戻すことにする。

最終号であるから、私としてロータリーが一番伝えたいことにしようか、書き足りなかったことにしようかと考えてみたり、月信編集部の方からも、ロータリーの未来についてはどうかなど、アドバイスもいただいた。

書きたいことは色々浮かんで見えたのだが、どれも最終回として取り上げるのは私的にピンとこないので、パッチワークについて考えることにした。

今までの集大成のようなものは書かないのですか？ロータリーの未来はどうなると思っているのかを書かないのですか？この続きはまた何かで書くのですか？との疑問を持つ方がおられるかもしれない。

それは…それは…、それはガバナーが終わってからの『明日のころだぁ！』

（あとがき）

1年間読み続けていただいたロータリアンの方々、有難うございました。最後は、ふざけたような終わり方で申し訳ありませんでした。でも、これが村井ガバナー的ところ、と捉えていただければ幸甚です。

RID2760 2018-19 ガバナー 村井 總一郎

新着情報をホームページ(HP)で公開しています

各種お知らせをはじめ定期配信コンテンツは、ガバナー月信発行に合わせHPにて更新します。各バックナンバーも閲覧しやすくなりました。

<https://www.rotary2760.org/g18-19/>

▼コンテンツタイトルをクリックするとリンク先PDFを開きます▼

定期配信

■ガバナー月信サイト

村井ガバナーのコンテンツやブログを掲載
メニュー>ガバナーズウェブサイト(各ページへ)

■ハイライトよねやま

メニュー>月次報告 (PDF)
vol.230 2019/5/13発行

■コーディネーターNEWS

メニュー>月次報告 (PDF)
2019年6月号 2019/5発行

■財団室ニュース

メニュー>月次報告 (PDF)
2019年6月号 2019/5/28発行予定

■文庫通信だより

メニュー>月次報告 (PDF)
vol.376 2019/4/25発行

ロータリー文庫より

これまで文庫通信につきまして、毎月25日発行しておりましたが、より厳選し、今後は隔月の「偶数月」に発行することとなりました。次号376号の発行・掲載は、6月25日となります。

■会員数と出席率

メニュー>月次報告 (PDF)
※2019年5月度分は6月中旬以降の配信となります。

お知らせ・お願い

■ガバナー候補推薦について

今年度の推薦は終了しました。

■各種賞・表彰の概要について

メニュー>お知らせ
「意義ある奉仕賞(旧意義ある業績賞)」の地区募集は終了いたしました。

■立法案提出のお願い

今年の提出期限は終了しました。

■WFFレポート

メニュー>月次報告
WFF参加報告書をHPに公開しています。ご覧ください。

■地区大会レポート

メニュー>月次報告
地区大会参加報告書をHPに公開しています。ご覧ください。

■青少年交換のお願い

今年の募集は終了しました。ご協力有り難う御座いました。

活動報告/その他更新記事

「ロータリーの親睦活動月間」
によせて
1995~96年度 ガバナー 石川 和昌

ガバナーやスタッフのブログも
ガバナーズウェブサイトで更新中!

■分区内交流だより

本年度は、他クラブ例会への積極的参加を推進しています。

■地区委員会報告

20委員会全ての活動情報を
随時更新しています。



最新情報の取得はメールマガジンが便利です!
最新記事リストはメールマガジンでも配信します。リストをクリックするだけで
閲覧したいページをブラウザで展開します。是非、活用ください。

